

## 5 おわりに

アメリカ合衆国の歴史は、日本と比較してたいへん浅い。だから、歴史資料館に行ってもそのほとんどが日本の近代以降の歴史資料ばかりである。しかし、その歴史資料が物語っていることは国家の歴史として、民主国家をいかにして形成してきたかということ、そのコンセプトはたいへん明確に伝わってくる。さらに、アメリカでは地域のコミュニティ形成の歴史を重視しており、まさに現在の生き方に直結するような歴史観の形成を大切にしているということを感じた。

特に、シカゴ歴史協会でも展示してあった星条旗に関しては、いくつもの星条旗の変遷がアメリカの発展の姿を物語っていた。民主国家として現在も発展し続けているアメリカ、星条旗にはその形成の過程がまさにシンボライズされているように私には思えたのである。アメリカの町並みを歩いていると、建物や公共物に星条旗が翻っている。日本のように一時の国体思想を象徴する日の丸というような概念ではなく、まさに「合衆国」形成の誇りであり、だからこそ星条旗にはアメリカ人の魂が込められているといえるのであろう。

決してアメリカが歴史教育に力を入れているとは思わないが、日本のこれからの歴史教育を考えると、改めてその歴史教育の中で何を教え、何が大切かもう一度問い直しを図らなければいけないように思えた。シカゴ歴史協会でも、南北戦争時の南部の黒人奴隷を縛っていた鉄の鎖が当時の写真といっしょに展示されていた。その鉄の鎖の前で、黒人と白人の女の子たちが、その使い方を笑いながら演じて確認しあっていた。その一場面に遭遇した時、合衆国であるアメリカの姿を見ただけでなく、アメリカの歴史教育の価値を強く感じることができた。



1840年頃の星条旗  
(シカゴ歴史協会より)



シカゴの町並み

---

### 参考文献

- 1) 紀平英作編 『アメリカ史』 山川出版社 1999年
- 2) 朝日百科世界の歴史 『生活21 フロンティアと移民(19世紀第10巻)』 朝日新聞社 1991年
- 3) 池田智・松本利秋 『早わかりアメリカ』 日本実業出版社 2000年
- 4) ブレズ・サンドラール 『黄金(ヨハン・アウグスト・サッター将軍の不可思議な物語)』 白水社 1986年
- 5) 岡本孝司 『ゴールドラッシュ物語』 文芸社 2000年
- 6) Sally Senzell Isaacs, *America in the Time of Lewis and Clark 1801to1850*, Heinemann Library, 1998
- 7) Phyllis Zauner and Lou Zauner, *California Gold*, ZANEL PUBLICATIONS, 1999